

映画の原作本特集

皆さんが見ている映画には、小説や漫画が原作となっている作品が多くあります。今回は、これまでに映画化された小説を4冊紹介します。すでに映画は見たけど小説は見えない、小説は読んだけど映画は見えない・・・という作品があるかもしれませんが、小説と映画の両方を見ると、作品を2倍楽しめること間違いなし！

何者 朝井リョウ（新潮社）

就職活動を目前に控えた大学生男女5人。ひょんなことから就職対策として集まり、お互いに情報交換や相談をするようになる。5人で就活を乗り越えていく展開になると思いきや、SNSや面接を通して、見えてくる本音や嫉妬が次第に彼らの関係性を変えていく…。就活を経験した人もしていない人も認めたくないけれど、思わず共感してしまう物語です。私たち看護学生があまり触れることがない就活の世界を、物語を通して少しでも垣間見ることができます。そして、最後には誰も予測しなかった事実と展開が待っているので、ご期待ください。



神様のカルテ 夏川草介（小学館）

筆者は現役の医師。この作品は第七回本屋大賞第2位となっている。信州で内科医をしている主人公の栗原一止が、色々な人と出会い成長していく様が描かれている。栗原と患者の間では、命の尊さについての会話が繰り広げられ、栗原はただ治療するだけでなく患者にとっての幸せを常に考えながら行動している。栗原の患者に対する誠実な向き合い方に感動する一方で、彼の問いには改めて考えさせられるものがあり、看護観にも影響をあたえられる一冊です。また信州の素晴らしい自然の雄大さと美しさ、長野県松本市の街並みが忠実に再現されている点も見所の一つです。



50回目のファーストキス 萩原はるな（講談社）

原作をリメイクしたこの作品は、ハワイを舞台にし、記憶障害の女性「瑠衣」と星を愛する男「大輔」の恋愛が描かれている。初め、記憶障害を隠している瑠衣の家族から、大輔は瑠衣に近づかないと言われてしまう。それでもなお大輔は諦めずに瑠衣にアプローチをし、徐々に瑠衣や家族の心を動かしていく…。それぞれの困難を乗り越えていこうとする葛藤が切なく、思わず応援したくなります。また、ハワイを彷彿とさせるような陽気な言葉やジョークがあり、シリアスだけでなくコメディ要素もあるのでテンポよく読むことができます。ぜひ、この一途な愛の物語を読んでみてください。



祈りの幕が下りる時 東野圭吾（講談社）

著者は、「探偵ガリレオ」シリーズや、「プラチナデータ」など数々の有名小説を手がけてきた東野圭吾。本作は、「新参者」シリーズの最終章。この小説は、『主人公がとある殺人事件の解決のために動くが、その事件には幼い頃に家を出たまま行方が分からなかった主人公の母が関係していた。』というのが大まかなあらすじです。難しい言葉も少なく、物語の展開の仕方も理解しやすいです。「新参者」シリーズは、阿部寛主演でドラマ化されており、この作品も今年の1月に映画が公開され話題になっていました。ドラマや映画を見た人も、「新参者」シリーズを読んだことがない人もぜひこの作品を読んでみてください。ラストの真実に感動します！！



☆ 学術メディアセンターだより ☆

TOPICS

1. おすすめ！英語の本紹介
2. 寄贈本の紹介
3. 順天堂大学医学部の先生方の著書
4. 映画の原作本特集

皆さんこんにちは。もうすぐ夏休みですね。暑い日が続いていますが、いかがお過ごしでしょうか。

今回は、英語の本や順天堂大学医学部の先生方の本、そして映画になった原作本を紹介しています。英語に苦手意識のある方や映画が好きな方必見です！

学術メディアセンターだより5号 通巻58巻 2018年6月(夏号)
順天堂大学医療看護学部 学術メディアセンター運営委員会
〒279-0023 千葉県浦安市高洲2-5-1 Tel.047-355-3111

Let's read !! おすすめ！英語の本紹介



初級

英語が苦手な人でも大丈夫！
まずは Oxford Reading Tree シリーズから読んでみましょう。
字数が少なく読みやすく、絵もとっても可愛いですよ。



中級

自分のレベルにあった本がわからないという人はコレ！
STEP INTO READING シリーズはレベル分けされていて、種類も豊富なので自分にあった本が見つかるはずですよ。



上級

読めるようになってきた人は PENGUIN READERS シリーズに挑戦！
字数が多いので読み応えがあります。
「パイプ」や「ハイジ」などの有名作品もありますよ。



おまけ

楽しく英語を勉強したいですね。
そんなときは漫画を読んでみてはいかがでしょうか。
人気作品の英語版が借りられます！



～編集後記～

今回は、英語の本、寄贈本、医学部の先生方の著書の紹介と、お勧めの映画の原作本を特集しました！本をあまり読まない人でも、自分と接点のある本や、好きだった映画の原作本となると興味が湧くと思います。夏休みなどを使ってぜひ読んでみてください！



保護者会から図書が寄贈されました

大人気の「病気がみえるシリーズ vol.1~11」と新たに「公衆衛生がみえる」「薬がみえるシリーズ vol.1~3」が保護者会より寄贈されました。これらのシリーズは、授業だけでなく、実習や国家試験の勉強にも役立つ、看護学生必見の図書です。

そしてなんと、今回シリーズを増冊して配架できたことで、貸出が可能となりました。学術メディアセンターの2階にありますので、ぜひ活用してください。



PICK UP!

順天堂大学医学部の先生方の著書

今回私たちがオススメする4冊は、順天堂大学医学部の先生方の著書です。医学部の先生方に授業でお会いすることはありますが、先生方が書かれた本を読む機会はこれまであまりなかったと思います。同じ順天堂大学に所属しながら、近いようで遠い存在の先生方・・・本を読むことで少しお近づきになれるかもしれません。

私たち看護学生が読んでもとてもわかりやすく、面白く楽しみながら読める本も沢山あるので、ぜひ手に取ってみてください！

白澤 卓二 (監修) スーザン・クチンスカス (著) 愛は化学物質だった!? (ヒカルランド)

この本は、愛着の生物学を心理学・神経科学・分子生物学などを用いてさまざまな角度から読み解いた本です。人間だれもが体内に分泌されているオキシトシン。このホルモンは別名「天然の愛の薬」「絆の化学物質」「社会的接着剤」と呼ばれるくらい人間の愛着行動に影響を与えています。そんなオキシトシンについて理解を深めれば、誰もがパートナー、子供、その他の人間関係においての永続的な愛をはぐくむヒントを得られるはずです！この本を読んでから、おもわず感情的になりそうな場面でも脳の中での物質の動きを客観視してみると「あ、今はオキシトシンのせいだな」などと冷静になることができるようになりました。愛については、皆さんも関心があると思いますのでお勧めです！



樋野 興夫 あなたはそこにいるだけで価値ある存在 (KADOKAWA)

この本は、著者が発案した“がん哲学”という学問に沿って、著者の考える「人生」が述べられています。最初のテーマは、「人生の目的は品性の完成にある」。ここにある品性とは性格という意味で、つまりはその人らしさを発揮することが重要だと綴られています。“がん哲学”とは聞きなれない言葉でしたが、テーマごとに分かりやすくまとめられていたため、スムーズに読むことができました。私はこの本を読んで、その人らしく生きることとその人らしく死ぬことの大切さや難しさについて、改めて考えさせられました。

「なぜ生きるのか」という問いは、がん患者だけではなく私たちにとっても重要な課題であると思います。今現在健康に生きることができている私たちですが、今の自分の生き方を見つめ直すチャンスとなるので、ぜひ読んでみて下さい！



服部 信孝 パーキンソン病の日本一の名診療所 順天堂大学が教えるパーキンソン病の自宅療法 (主婦の友社)

皆さんは、パーキンソン病という病気をご存知ですか。名前は聞いたことがあっても、実際にどのような病気なのか、どのような症状なのかをわからない人も多いと思います。この本はパーキンソン病とその治療法、パーキンソン病になった患者や家族の心の持ち方、最新の薬から家でできるリハビリまで様々な内容が丁寧に読みやすく書かれています。私が特に印象に残ったのは、パーキンソン病の治療のことで、現在主流の薬物治療が現れる前は外科治療が主流だったという話で、1950~1960年代までは脳の一部を破壊していたそうです。

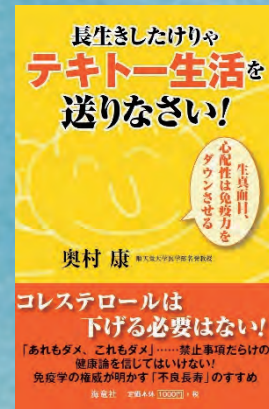
私が実習でパーキンソン病の患者を受け持った際には、患者の自主性を引き出し、心と体のリハビリをサポートしたいと思いました。パーキンソン病は誰にでも起こりうる病気なので、人生で一度は読んでほしい一冊です。



奥村 康 長生きしたけりゃテキトー生活を送りなさい! (海竜社)

病気に対して行われている医療行為のうち、実際に役立っているのは1割しかない?! 食事・運動指導を行った真面目グループと好きなだけアルコールを摂取しタバコを吸い、特に制約のない不真面目グループ、15年後にどちらの健康結果の方がよかったのか...など、従来の健康論を覆す免疫力アップの方法とその根拠が載っています！

この本は、「え、ほんと〜?」と思ってしまうようなことが、綿密な実験結果を基に書かれているので、信憑性が高くとても興味深かったです。また、聖路加国際病院名誉院長であり去年103歳で亡くなった日野原重明先生や元プロ野球選手の長嶋茂雄さんの元気の秘訣も載っていて、とても面白く「〇〇しなくては」という考え方から、テキトーでもいいんだ、と思えてストレスが軽くなるような内容になっています。この本を読めば、テキトー生活の利点がわかり、ストレスが減り、長生きできるかもしれませんよ。



白澤 卓二

前順天堂大学大学院医学研究科(加齢制御医学講座)教授。現在、白澤抗加齢医学研究所所長。寿命制御遺伝子の分子遺伝学、アルツハイマー病の分子生物学、アスリートの遺伝子研究が専門。「100歳までボケない101の方法」、「老いに克つ百寿の生き方」などの著書がある。

樋野 興夫

順天堂大学医学部(病理・腫瘍学講座)・大学院医学研究科(分子病理病態学)教授。2008年に「がん哲学外来」を開設。高松宮妃癌研究基金学術賞受賞。「がん哲学外来へようこそ」、「明日この世を去るとしても、今日の花に水をあげなさい」などの著書がある。

服部 信孝

順天堂大学医学部(神経学講座)・大学院医学研究科(パーキンソン病病態解明研究講座)教授。パーキンソン病、神経内科一般が専門。「運動障害診療マニュアル:不随意運動のみかた」、「あなたも名医!ここを押さえる!パーキンソン病診療-34のギモンに答える」などの著書がある。

奥村 康

順天堂大学医学部・大学院医学研究科(免疫学講座)特任・名誉教授。免疫学(リンパ球機能分子の研究、細胞傷害機序の解明、免疫寛容の研究)が専門。「健康常識はウソだらけ 免疫力がアップするすべてのポイント!」、「免疫整体防御のメカニズム」などの著書がある。